

4 K・8 K放送の普及段階を見据えた 衛星放送の在り方について

2019年12月13日

日本放送協会

衛星放送の在り方について

■現時点での整理・削減の考え方

- 4 K・8 K放送の普及段階を見据えた衛星放送の在り方については、2 K放送のみご覧いただいている視聴者が多いことを踏まえて、視聴者保護の観点を堅持した上で、現在の4波を「2 K・4 K・8 K」の3波に整理・削減する。
国の「4 K・8 K推進のためのロードマップ」を踏まえて、オールジャパンで取り組む中で、公共放送として先導的な役割を果たしていきたい。
- 整理・削減にあたっては、視聴者が4 K放送をご覧いただける視聴環境が整うことや、外部を含めたコンテンツの制作体制が2 Kから4 Kに円滑に移行することが前提と考えている。
今後、オリンピック・パラリンピック東京大会に際しての4 K・8 K放送の普及状況や整理・削減に対する視聴者・国民の意向等を十分に把握した上で、2020年度中を目途に整理・削減に向けた案を策定する。
- また、整理・削減を見据えて、来年度から4 K・2 Kの“一体制作”を加速させること等により、事業支出の削減を着実に進めつつ、4 K放送の普及推進と外部の制作体制の4 K化を促すことにより、整理・削減の実施に向けて、みずから積極的に環境を整えていきたい。

衛星放送の在り方について

■ 整理・削減後の各波のイメージ

右 旋

BS1

- 衛星基幹放送の広域性、経済性、大容量性及び高品質性を生かした情報の提供を行う総合放送

**BS
プレミアム**

- 外部の事業者の企画・制作能力を放送番組に活用し、過去の優れた文化の保存並びに新たな文化の育成及び普及を促進することを目的とする総合放送

BS4K

- 右旋円偏波の周波数1/3の範囲内において行う総合放送

左 旋

BS8K

- 左旋円偏波の周波数1の範囲内において行う総合放送

2020東京大会に際しての4K・8K放送の普及状況や整理・削減に対する視聴者・国民の意向等を十分に把握した上で、2020年度中を目途に整理・削減に向けたプランを策定する

BS (2K)

- 多様な視聴者の期待・要望に応えるため地上波にはない高い専門性や長時間たっぷりお伝えする2Kコンテンツ等を提供する
- 首都直下地震による本部の機能停止時等に地上波に代わって放送継続を担う

BS (4K)

- 国のロードマップを踏まえて、放送の高度化において先導的な役割を果たす
- 知的エンターテインメントやドラマ等の新作4Kコンテンツを充実させ、チャンネルの魅力を高めていくことで、4K放送の普及推進に貢献する

BS (8K)

- 左旋開拓の先導的な役割を果たす
- 8Kの特性を存分に生かした最上級コンテンツを提供する

2K、4K、8K、それぞれの特性を生かした多様なコンテンツを効率的・効果的に展開することにより、衛星放送業界全体の活性化・多メディア時代の衛星放送の競争力強化に先導的な役割を果たす

現在

整理・削減

衛星放送の在り方について

■ 整理・削減を見据えた来年度からの施策

① “一体制作”の加速



	来年度～
一体制作	▲
制作練度	▲
事業支出	▼

- BSプレミアムを中心に4K・2Kの“一体制作”を加速させることにより、4K放送の普及推進に資するコンテンツの充実とあわせて、放送・サービスにおける経費を抑制し、事業支出の削減を着実に進めていく。
- 現在、“一体制作”は、制作期間や外部リソース使用等の面から2K制作のおよそ1.3～1.4倍程度の制作コストを必要としているが、毎年度、制作の練度が向上して、コストが逡減すること等を見込んでおり、これにより、経費抑制の効果が高まっていくものとする。

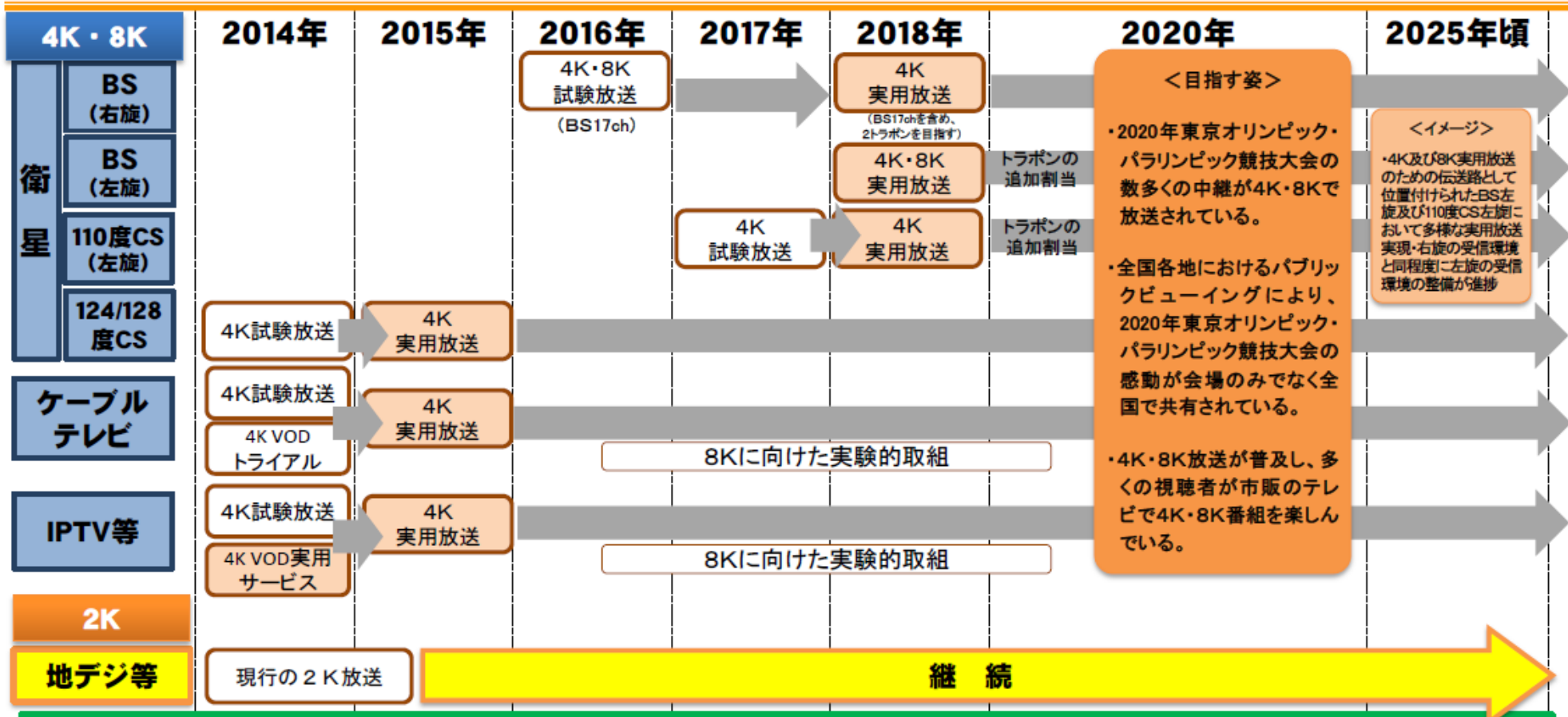
② 番組制作委託の見直し

- “一体制作”の番組を中心に、4Kの番組制作においても「企画競争」の拡大に取り組んで、外部プロダクション等の参加を積極的に促し、関連団体への委託の比率を逡減させていくこと等で、業務委託の効率性を高める。
- これを通じて、外部の制作体制が2Kから4Kへ円滑に移行することを促し、整理・削減の実施に向けて環境を整えていく。

	来年度～
企画競争	▲
外部制作	▲
関連団体委託	▼

衛星放送の在り方について

【参考】4K・8K推進のためのロードマップ～第二次中間報告（2015年7月）



4K・8Kの普及に向けた基本的な考え方 ～2K・4K・8Kの関係

- 新たに高精細・高機能な放送サービスを求めない者に対しては、そうした機器の買い換えなどの負担を強いることは避ける必要がある
- 高精細・高機能な放送サービスを無理なく段階的に導入することとし、その後、2K・4K・8Kが視聴者のニーズに応じて併存することを前提し、無理のない形で円滑な普及を図ることが適切

衛星放送の在り方について

【参考】NHKの4K・8Kの取り組み

- 2018年12月1日、4Kと8Kの本放送開始

BS4K

超高精細映像の入り口となるチャンネル放送は、毎日6時～24時
ピュア4K率90%

BS8K

次世代の放送文化を牽引するチャンネル放送は、毎日10時～22時10分
ピュア8K率60%

- 東京オリンピック・パラリンピックで、最高水準の放送・サービスを提供するため、4K・8Kの設備整備に重点的に取り組んでいる。

2018年度 202億円 / 2019年度 167億円



8Kカメラ



4K・8K送出設備



8K中継車

- 4K・8Kを体感していただくパブリックビューイングや受信公開にも積極的に取り組んでおり、ラグビーワールドカップでは4K 7試合、8K 3試合を全国各地で約4万人にご覧いただいた。



パブリックビューイング